

大曲高・書道部

# 農業への思い 筆で表現

大仙市花館 J A直売所に展示

大曲高校（大仙市）の書道部が制作した巨大な書道作品が、同市花館のJ A秋田おほこ直売所「しゅしゅえつとまるしえ」に展示されている。部員が農作業を通して感じた農業のイメージを、力強い文章と文字で伝えている。12月



下旬までの予定。書は2枚あり、縦1・5尺で、横幅は3尺と4尺。「人々が豊かな生活を送り、平和な世の中を楽しむこと」を意味する「含哺」「鼓腹」の文章を考えた。さまざまな世代の方に作品を見てほしい」と話した。（佐藤和輝）

大曲高書道部が制作した農業の価値を伝える作品

力 実る畑の宝石」「新しい技術で溢れる恵み 未来はこの場所から私たちが繋ぐ」などのメッセージも添えた。同校書道部は、農林水産省が東北6県の道の駅や秋田魁新報社など地方新聞社6社と連携し、国産農産物の消費拡大を目指す運動「食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT FES 東北」に参加している。9月上旬には、大仙市四ツ屋のJ A秋田おほこ園芸拠点センターでトマトの箱詰めなど農家の作業を体験した。作業後、部員は農作業の感想や農業のイメージを出し合っただけでなく、作品の文章を決め、部員全体で手分けして文字をしたためた。部長の佐々木達和さん（16）は「農家から感じた、農業への熱い思いが伝わるような文章を考えた。さまざまな世代の方に作品を見てほしい」と話した。（佐藤和輝）